

任を去るに臨みて

空 閑 克 己
黒 瀬 勘 一

回顧すれば我等非才任を承けて、既に一星霜。花陵の春逝き龍嶺の秋去りて、暢陽の氣亦來る。彩華花を競ふ龍嶺に於て、力説し主張するは正に天才の事に屬す。

我等凡庸、龍南八百の健兒諸君の期待の萬一にも副ふ事能はず。事、志と違ひ、現實は理想と齟齬し、慚汗背を濕す。されど衷心の赤誠を披瀝して、我等が所信を行ひ拮据馳勉、斷々乎として人事を盡さば、過は以て殷鑑とし、尙進んで經營向上の勞を致すべきのみ。過去一星霜。我等幸に大過を龍南に求めざりしは、偏に諸彦の鞭撻と指導とに俟つこと大なり。

嗚呼、歲月徒に流れて、人を待たず。吾人豈に亦任を去るに臨みて、感慨なからんや。

混沌錯雜せる人事に於て、濁波揚り葦酒の香のみ高き時に於て、哲人傑士と雖も、荊棘を啓き、溷濁を純むるは難し、此の時に當り、高遠なる理想の盾と、眞摯なる務力の矛を以て、獨立自助、熱烈の意氣に燃ゆる我健兒の任務や重大なるものあり。吾人は徒に喃喃するを己め、虚勢を排し、虚文を去りて、直實を求むべく、衷心の主義、赤誠の信念、以て勇往すべく邁進すべし。潑瀾たる精神氣魄は青年の寶なり。校風此に輝き抱負此に成る。扶搖三千里の鵬よ！自重すべく、自愛すべし。南冥や隔り、天地や遠し。之に到達するものは必ず龍南にあるを信じて疑はず。任を辞するに當り、謹で諸君の祝福と發展とを祈る。